

皆様、本日は、ご多忙の中、東京藝術大学国際芸術リソースセンター（IRCA）竣工・附属図書館リニューアルオープン記念式典にご臨席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日ここに、東京藝術大学国際芸術リソースセンターが無事に竣工し、こうして皆様にご披露できますのも、ひとえに日頃からご支援ご協力いただいております関係者の皆様のご尽力の賜物と、心より感謝申し上げます。

本学は、明治12年に音楽取調掛、明治18年に図画（ずが）取調掛がそれぞれ文部省（もんぶしょう）に置かれたことを起源とし、明治20年10月には東京美術学校と東京音楽学校の2校が設置され、ここ上野の地に我が国近代芸術教育の礎が築かれました。昨年はお蔭様で東京藝術大学創立130周年を迎え、多くの記念事業を開催したところです。

前身となる両校からの長い歴史を持つ上野キャンパスは、本学のこれからの発展のためにも全学的な見地から再整備が必要となり、平成25年には『上野キャンパスマスタープラン2013』が作成されました。当時、耐震改修を必要としていた附属図書館棟はこのプランに沿って整備されることになり、その改修計画は国際芸術リソースセンター構想に発展し、前学長の宮田亮平先生の元で実現に向けて進められました。平成27年度には、文部科学省のご尽力により新営予算の交付が決定し、この建物（第Ⅰ期）の建築が始まりました。平成28年度からは、文化庁長官となられた宮田前学長から私が学長職を引き継ぐことになりましたが、旧図書館棟（第Ⅱ期）の改修工事の予算をお認めいただくことができ、国際芸術リソースセンター構想が実現することとなりました。ここに至るまで、国の厳しい財政事情や資金調達が困難を極める中、限られた予算の中で、学内外各方面の皆様からのご協力をいただき、知恵を出し合って、少しでも充実した施設をという多くの皆様の熱い思いが、本日ここにその完成を見たことは私にとりましても大きな喜びです。

ちなみに当初、この建物は芸術図書館という仮称で、建設計画が進められていましたが、宮田前学長より、「もっと気の利いた良い名称を考えるように・・・」とのお達しがあり、準備委員会で知恵を絞った結果、International Resource Center of the Arts 略してIRCA イルカという愛称が学長に喜んでもらえるのでは・・・という思いで、英語名が先に出来上がり、そこから国際芸術リソースセンターという名称になりました。現在、東京藝術大学のロゴは、宮田先生の揮毫がもとになっております。

この度、竣工となる国際芸術リソースセンターには附属図書館のみならず、大学美術館、大学院美術研究科の一部が入居します。その名称に相応しい、東京藝大が持つ、過去、現在、未来の芸術資源の保存や活用、そして世界に向けての発信を担うべく、一層励んでまいり所存でございますので、どうか皆様、今後ともこれまでと変わらぬご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご臨席の皆様方のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げまして簡単ではございますが、私のご挨拶とさせていただきます。

平成30年9月5日 東京藝術大学長 澤 和樹